



俺と焼き鯖



book-fukunokami

俺と焼き鯖

「俺も鯖を焼くんだ」

俺は魚屋の前で叫んだ。

「ヘイ、鯖を焼くんだね、じゃあ、これだ」

俺は鯖を買った。

俺は帰って鯖を焼いた。

よく焼けた。

鯖はうまそうになった。

「おや、うまそうな鯖だねえ」

魚屋が訪ねてきた。

「鯖の焼け加減が気になったんだが、上手く焼けたようだね」

「おかげさまで、上手く鯖が焼けました」

「おやおや、それは良かった」

上手く鯖が焼けて良かったのであった。